

[社会福祉学部]

科目群の編成

科目群の編成

前述した教育目標を達成するため、社会福祉学部で開講されている全授業科目はいくつかの科目群に分けて位置づけされている。ここでは、それぞれの科目群がどのような目的と特色をもっているのか、卒業のためにどのように履修していけばよいのかなどについて説明する。

授業科目と履修上の説明

授業科目は大別すると、「教養科目」と「専門教育科目」とに分けられる。

社会福祉学部の履修体系(表)

2025年度生						最低必要単位数		
区 分		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	必修	選択必修	選択
教 養 科 目	a. 導入科目	人間と社会の理解				4		8 (6)
		情報リテラシー						
		アカデミックライティング						
	b. 論理と思考	選択必修〔最低 4 単位〕					4	
	c. 身体と感性	選択必修〔最低 4 単位〕					4	
	d. 地域と世界	選択必修〔最低 4 単位〕					4	
	e. 歴史と未来	選択必修〔最低 4 単位〕					4	
	f. 外国語	選択必修〔最低 4 単位〕外国人留学生を除く					4(0)	
	g. 日本語	日本語Ⅰ、Ⅱ		外国人留学生のみ履修可		(4)		
日本事情基礎		(2)						
h. 職業と生き方	福祉の仕事				2			
計 34 単位 (A)								
専 門 教 育 科 目	i. 基幹科目	社会福祉の視点と方法				2	8	12
	j. 基礎科目	選択必修〔最低 8 単位〕						
	k. 展開科目	選択必修〔最低 8 単位〕					8	
	l. 演習・実習科目	選択必修〔最低 4 単位〕						
	m. 総合研究科目	専門ゼミナールⅠ				4	4	
計 38 単位 (B)								
合計 124 単位 (=A+B+C) (※3)								

教養科目及び専門教育科目から52単位選択

(C)

※1 教養科目

- ・別表1-1の教養科目表から計34単位(A)を修得する。
- ・このうち、a.「人間と社会の理解」(4単位)、h.「福祉の仕事」(2単位)は必修である(外国人留学生は、これらに加え「g.日本語」の「日本語I、II」(4単位)及び「日本事情基礎」(2単位)の合計12単位が必修である)。
- ・なお、a.の「情報リテラシー」と「アカデミックライティング」は必ず年度の最初に履修登録するが、単位を修得できなかった場合は次年度以降に選択科目と同じ扱いになる。
- ・b.～f.は選択必修科目である。選択必修とは、b.～f.の各領域の授業科目の中から、それぞれ最低4単位を必ず選択し、5領域併せて合計20単位を修得しなければならないという意味である。
- ・残り8単位は、教養科目全領域の中から選択し、取得する(外国人留学生は、残り6単位を教養科目全領域の中から選択し、取得する)。

※2 専門教育科目

- ・別表1-2の専門教育科目表から計38単位(B)を修得する。
- ・このうち、i.「社会福祉の視点と方法」(2単位)、m.「専門ゼミナールI」(4単位)は必修である。
- ・i.～k.は選択必修科目であり、以下解説する。
- ・i.領域及びj.領域から必修「社会福祉の視点と方法」(2単位)の修得に加え、残り8単位を選択して修得する。
- ・k.領域から8単位を選択し、修得する。
- ・l.領域及びm.領域から、必修「専門ゼミナール」(4単位)の修得に加え、残り4単位を選択し、合計8単位を修得する。
- ・i.～m.領域の必修及び選択必修合計26単位(2+8+8+4+4)の修得に加え、i.～m.領域から12単位を修得し、専門教育科目合計38単位を修得する。

※3 卒業に必要な単位

- ・卒業に必要な124単位を修得するためには、教養科目34単位(A)、専門教育科目38単位(B)に加えて、(A)と(B)で取得した単位とは別に、教養科目・専門教育科目から52単位(C)を修得する。
- ・この選択の 52単位には単位互換による他大学での履修単位を含む。

※4 ()内の数字は外国人留学生の修得単位を示す。

1. 教養科目

教養科目は、「導入科目」「論理と思考」「身体と感性」「地域と世界」「歴史と未来」「外国語」「職業と生き方」の系列からなる。

(1) 「導入科目」

この系列には、全学生が1年次に履修しなければならない「人間と社会の理解」が配置されている。

「人間と社会の理解」は、少人数でクラスを編成するゼミナール形式の授業であり、人間と社会が関わりあう現実場面を広く体験することを通して、問題を自ら発見・考察し、まとめる作業を通して課題探求力を養うことを目的としている。

また「アカデミックライティング」では、意見と事実を分けて記述したり、先行研究を適切に引用しその出典情報を明記したり、無自覚な剽竊に陥ることを避けて自らの考えを根拠に基づいて論理的・客観的に記述するといった、レポートや論文を執筆する際に求められる最小限必要な技術や心構えの修得を目指す。

(2) 「論理と思考」「身体と感性」「地域と世界」「歴史と未来」

社会福祉学部のカリキュラムポリシーとの整合性を図って、上記4系列を配置している。

〔第1群 論理と思考〕 体系づけられた合理的知識に基づき、論理的に、そしてときに批判精神と批判力を伴わせて、ものごとを考える。加えて、対人援助のためのコミュニケーション技術の修得を図る。自然科学系領域においては、体系的な知識を身につけながら論理で説明できる考察力を養う。人文社会科学系領域においては、知識を踏まえた批判力をもって社会事象を深く考える姿勢を養う。

〔第2群 身体と感性〕 人間活動の基礎となる生命力と健康的な身体・精神を保持し、自然・社会事象への高い感受性を磨きながら、その生命身体感性を行動の原動力とする。生命活動を自己の身体と周囲の環境の両面から認識し、さらには文化・芸術も受け止めながら創造するような感性を磨く。これらの科目群によって構成される多様な学問領域での学修によって学生を取り巻く「いま・ここ」を相対化することを目指す。

〔第3群 地域と世界〕 長野大学が位置する信州・上田をまずは地に足の着いたフィールドとし、自然・風土・文化・人の営みを学ぶことをとおして、地域を理解し愛着をもって地域の持続的発展を担う気概を醸成する。さらには、長野県を越えて社会や世界というもののあり方を普遍的に考究する意識を高める。

〔第4群 歴史と未来〕 グローバルな視野を持ち、文化的にも多様な人々と共生する意識を育てながら、自らが身を置く地域の固有の価値を理解して国際社会に発信する力を養う。そのためにも、自己と世界の来し方行く末を歴史的に考察し、現在の立ち位置を知り、それらを踏まえてこれからの未来への道行きを構想する知恵を紡ぐ。

(3) 外国語科目

外国語科目の教育目標はコミュニケーションのための実践的な語学力を養成することと、諸外国の生活・社会・文化等に対する知識を身につけることである。

<外国語科目の特徴>

①外国語科目には英語、中国語、ドイツ語、韓国語の4ヶ国語がある。

②英語は、「基礎英語Ⅰ・Ⅱ」及び「英語(講読)Ⅰ～Ⅵ」「英語(会話)Ⅰ～Ⅵ」の14科目、中国語は「中国語Ⅰ～Ⅵ」の6科目、ドイツ語、韓国語は「ドイツ語Ⅰ・Ⅱ」「韓国語Ⅰ・Ⅱ」の2科目ずつ開講され、レベル別にクラスがわかれている。

語学は、段階履修方式の科目である。順番に履修すること。

また、同一セメスター内でⅠとⅡのように段階履修方式の科目2科目を同時に履修することはできないので注意すること。

③英語は、自身に合ったレベルを選択すること。レベル選択の目安はガイダンスで周知する。

④中国語、ドイツ語、韓国語は必ずⅠから履修すること。

⑤外国語は「英語(講読)」「英語(会話)」「中国語(聴解)」「中国語(作文)」を除きすべて週2回の授業である。

◆外国人留学生の履修上での留意点

外国人留学生は「日本語Ⅰ～Ⅱ」、「日本事情基礎」の3科目すべて、6単位を履修する必要がある。

「日本語」

外国人留学生は原則として1年次前学期に「日本語Ⅰ」、後学期に「日本語Ⅱ」を履修する必要がある。クラスは教育支援担当で自動的に履修登録される。

「日本事情基礎」

「日本事情基礎」は1年次の必修科目である。

(4) 「職業と生き方」

共生福祉社会に貢献できる職業人として、仕事や職業に関する考え方を育成する科目群である。将来就く自分の職業について理解を深め、福祉に関する関心と就業に対する意欲を養い、同時に社会人としてもつべき態度や思考力・判断力を身につけることができる。

2. 専門教育科目

(1) カリキュラム体系(カリキュラムポリシー)

社会福祉学部「専門教育科目」は、①人と福祉について基本的な知識を身につける(人間と社会についての幅広い視野が形成されるよう、バイオ(身体)・サイコ(心理)・ソーシャル(社会)の視点から分析・解明する能力を育成する。)、②福祉の担い手に必要な専門的な知識技術を身につける(人びとの地域生活を支えるために、ミクロ(個人、家族)・メゾ(組織、施設)・マクロ(制度・政策)レベルの専門的な知識や技術、価値を学び、専門的な知識及び技術力を育成する。)、③福祉の担い手に必要な実践力を身につける(福祉課題を身近なものとしてとらえることができるよう、演習・実習、インターンシップなどのより実践的な学びを保障することによって、実践力を育成する。)、④地域の実情や課題を把握し地域福祉に貢献できる力を身につける(地域の実情に応じた地域包括ケアシステムづくりをめざし、長野県の特性を生かした独自性のある科目を配置し、地域福祉に貢献できる力を育成することを目標にカリキュラムが組まれている。

本学では、1988年度より「社会福祉士」国家試験受験資格取得課程、1999年度より「精神保健福祉士」国家試験受験資格取得課程が、2009年度からは特別支援学校教員養成課程が開設されている。また、2003年度からは「認定心理士」資格、2019年度からは、公認心理師試験を受験するための資格の一部となる、大学で履修することが必要な科目が開講されている。この他に中学校社会、高等学校地理歴史、公民の免許状取得が可能である。これらの課程および資格・免許取得を希望する学生は、1年次より計画的に指定科目等を履修していくことが望ましい。

注)複数の資格を取得する場合、資格の組み合わせによっては4年間で取得できない場合や、資格によっては併修できない場合があるので、ガイダンスの内容を十分承知するとともに、教職員によく相談すること。

(2) 専門教育科目の構成

専門教育科目群は、科目の内容・特性に応じて区分され、「基幹科目」「基礎科目」「展開科目」「演習・実習科目」「総合研究科目」の5領域から構成されている。科目の性格により、履修可能年次が設定されているので留意すること。

①基幹科目

社会福祉に関する原理的な理解を深める科目で構成され、専門性の基盤を構築するために必要となる中核的な科目である。

②基礎科目

社会福祉、精神保健福祉、教職、心理に関する基本的理解を深める科目で構成され、専門領域を組み立てる基礎的な知識と技術を身につけるための科目群である。

③展開科目

社会福祉、精神保健福祉、教職、心理に関する発展的理解を深める科目で構成され、基幹科目と基礎科目で養われる専門性を展開させる科目群である。

④演習・実習科目

社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験資格の取得に必要な演習、実習指導、実習および認定心理士の資格取得と公認心理師資格取得のための大学レベルの科目として必要な演習、実習、実験が配置されているとともに、「教育のユニバーサルデザインと授業作り」、「インターンシップ」、「公務員特別コースゼミナール」、「国際キャリアゼミナール」など、講義科目等で学んださまざまな福祉課題、生活課題を身近なものとしてとらえつつ、みずからの専門性をより高めるための実践的な科目群で構成されている。

⑤総合研究科目

「専門ゼミナールⅠ」(必修)、「専門ゼミナールⅡ」、「卒業研究と論文」から構成され、学生の課題意識をさらに探求していくと同時に、主体的な学習・研究を指導することに主眼をおいた科目群である。

3. SPARC科目について

(1)SPARC科目(科目名の後に「(SPARC)」が記載されている科目)とは何か

SPARC科目は、2024年度から信州大学・長野大学・佐久大学の3大学で共通に開講する科目群(全部で30単位分。教養科目のみ)で、主としてオンデマンドで授業提供している。

(2)SPARC科目開設の目的

いわゆる文系・理系に関係なく、専門性を高めるため基礎となる幅広い分野の教養を身につけることを目的とし、最終的には様々な課題を持つ地域で活躍できる「地域活性化人材」を長野県全体で育成していくための取り組みをねらいとしている。

(3)SPARC科目の特徴

いわゆる理系科目・文系科目を横断させる形の科目群(STEAM教育)を用意している他、課題解決型学習の「PBL」、起業家精神養成にかかる「志」を立てる授業科目などがある。

(4) SPARC認証について

- ①指定の科目を取得した学生には、「地域活性化人材」の知識やスキルを証明するデジタル認証(Ex.オープンバッジ)が付与できるよう準備している(2025年3月現在)。
- ②長野大学の科目表のうち、「登録必修」「必修」と記載されている科目(全部で10単位)をすべて習得することがSPARC認証を得るための条件となっている。

4. 3つのコースによる系列的な教育

社会福祉学部には、社会福祉・福祉心理・発達支援の3つのコースがあり、1年次より自分が将来進みたい分野、必要とする資格取得に向けて、各コースでの学びを参考にしながら学生が自分の学びを主体的に構築することが望まれる。それぞれのコースには、将来必要とされる知識や、資格取得に必要な科目が体系的に用意されており、目指す将来に向けて、効果的に専門性を深めることができる。

なお、各コースの登録は、3年次の専門ゼミナールの選択によって決定される。

①社会福祉コース

社会福祉コースでは、さまざまな生活問題を抱える人のソーシャルワークを行う社会福祉の専門職をめざして、高齢者や障害者、児童などへの支援のあり方や、地域社会に必要とされる社会福祉について考えることを目指すカリキュラムを設定している。

社会福祉の分野において重要なのは、さまざまな問題をどのように捉えていくかということである。多様化する現代社会において、これまでの福祉の枠組みでは対応できないことがたくさんある。何が問題なのかをもう一度考え直し、枠組みにとらわれない柔軟な発想をしていくことが必要である。学生たちには、社会福祉の学びを通して視野を広げていただきたい。

[取得可能な資格]

- 社会福祉士(国家試験受験資格)
- 社会福祉主事(任用資格)

- 精神保健福祉士(国家試験受験資格)
- 児童指導員(任用資格)

②福祉心理コース

福祉心理コースでは、認知、学習、人格、発達などに関する心理学の基礎理論に加え、「心理学的支援法」や「心理的アセスメント」、および「心理学統計法」などを学び、人の心を科学的に捉える視点と技術を身につけることを目指すカリキュラムを設定している。

心理学は人間の行動や心の動きを科学的に分析するとともに、苦悩や困難を抱える人々を心理学に基づいて支援・援助していく学問である。心理学の研究テーマには、人間の日常生活に直結したものが数多くあり、その中には福祉等の現場や一般企業、公務で役立てられる知識や技術も多い。本コースでは、心理学の知識を身につけることにより、広く一般社会で活躍できる人材の育成を目指している。

[取得可能な資格]

- 公益社団法人 日本心理学会 認定心理士
- 同 認定心理士(心理調査)

※「公認心理師」については、大学(学部)の省令科目(必修科目)のみ開設しており、本学の大学院総合福祉学研究科では、公認心理師の大学院カリキュラムには対応していません。また、本学の省令科目の中には受講定員が設定されている科目があることにご留意ください。

※「公認心理師」資格については、学修ガイドの「資格の取得」とHPを必ずご確認ください。

なお、心理系大学院の入学試験では、英語の試験が課されることが多いため、心理系大学院志望者は、外国語科目の選択にあたって十分留意されたい。

③発達支援コース

発達支援コースでは、特別支援学校や中学校・高校などで活躍する教員をめざして、社会福祉の基礎はもとより、教育に関する基礎理論や方法を学び、教育現場で求められる福祉の知識や専門性を養うことを目指すカリキュラムを設定している。

多様化する現代社会において、子どもを取り巻く環境は大きく変化している。教育に対する課題やニーズも複雑になり、従来の教育指導では通用しないことも少なくない。そこで重要となってくるのが、社会福祉の発想である。在学中にさまざまな福祉の知識を身につけて、これからの教育のあり方と真摯に向き合っていただきたい。

[取得可能な資格]

- 特別支援学校教諭一種免許状※(知的障害者・肢体不自由者)
- 高等学校教諭一種免許状(地理歴史)
- 高等学校教諭一種免許状(公民)
- 中学校教諭一種免許状(社会)

※特別支援学校教諭一種免許状を取得するには、「基礎免許」として中学校または高等学校の免許が必要となる。また、特別支援学校教員一種免許状は、社会福祉士、精神保健福祉士、公認心理師、及び認定心理士との併修はできないので注意すること。